

森の中で聴こえる音は、生物同士のコミュニケーションだったり、他の（環境の）音と関連して音質が決まっていたりして、音の世界（生態系）を作っています。音の意味を考えていくと、森の音を聴くのが楽しくなることだけあいです。



ねらい \_\_\_\_\_

意味を意識しながら、森の中の音を聴くことができるようになる。

達成目標 \_\_\_\_\_

- ・聴いた音がどのような音なのか工夫して記録できる。
- ・音の意味について考えを言えるようになる。



**導入**

「森の音、動物たちの鳴き声などの音にはそれぞれ何らかの意味があるはず。今日はそのことを考えてみましょう」まずはよく音を聴き、書き取ることを伝える。

**ふりかえり・わかちあい**

何人かのグループになって考えたことを紹介し合う。また、音の意味を知ること、どんなよいことがあるのか話し合う。

**本体**

ワークシートの設問に従って、音を聴いて記録する作業を行う。聴こえた音同士の関係を考え、その音のもつ意味を相談しながら考える。

**まとめ**

音に注意を払うと、音の意味を知ることができる。音にもそれぞれ意味があり、音の世界でも生態系があることを伝える。

**実施のポイント**

単に音を聴くだけでなく、実際に音を出している（音が出ている）状況を確認することで、音の意味はよりわかりやすくなる。

◆所要時間	40~60分
◆人数	5~40人
◆関連教科等	総合的な学習の時間、音楽
◆焦点を当てる能力	聴く、記録する、想像する、観察する、コミュニケーションする
◆準備するもの	ワークシート、クリップボード、筆記用具
◆安全のポイント	危険な場所があるときには、事前に注意を告げる

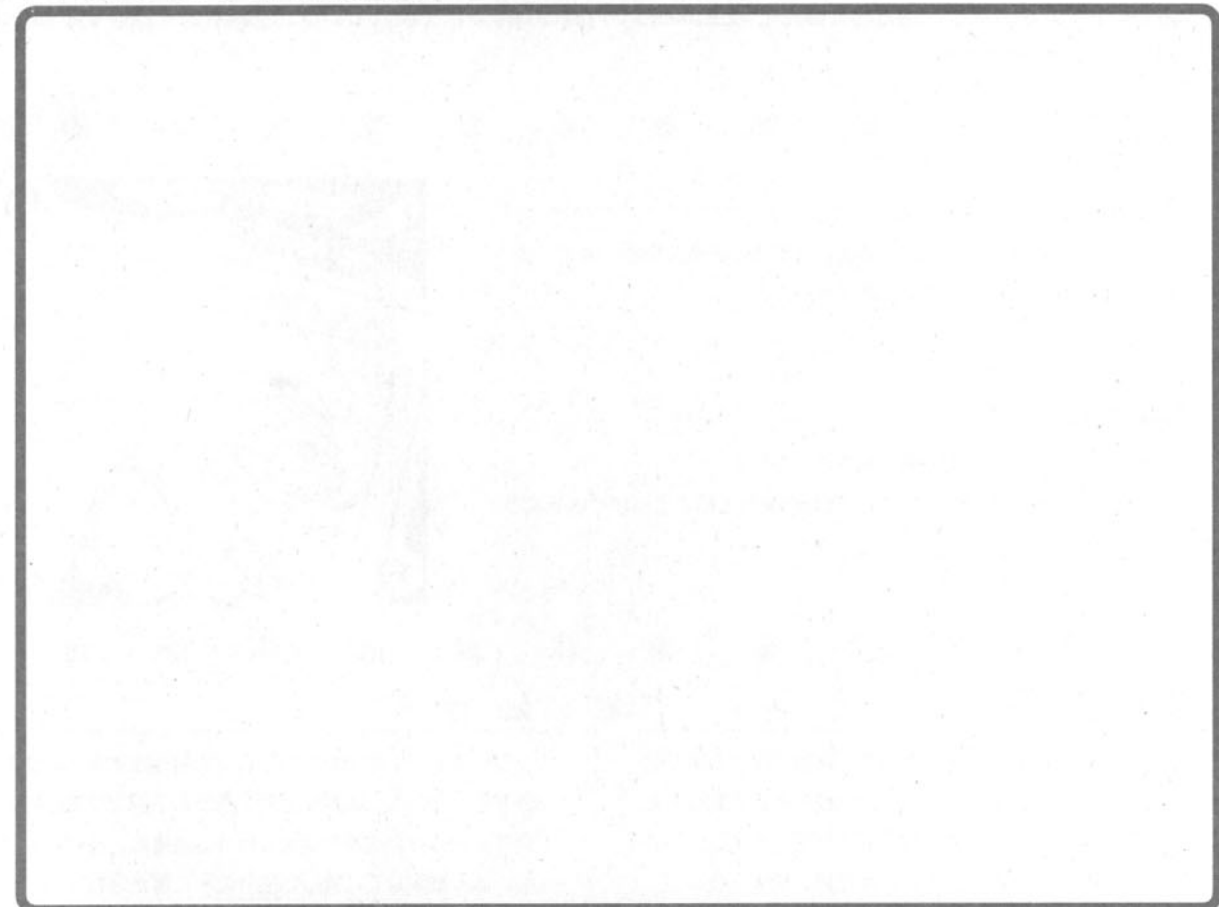
**評価の視点**  
 音の意味をよく考え、観察の結果から自分の意見をいうことができたかどうか、というポイントを大切にしたい。活動後、聴こえてくる音に興味をもつようになるかどうか、評価の対象になる。

**発展・応用**  
 「コミュニケーション」ということを考え、自然界の音環境は、私たちのコミュニケーションと違いがあるかどうか、話し合うとよい。

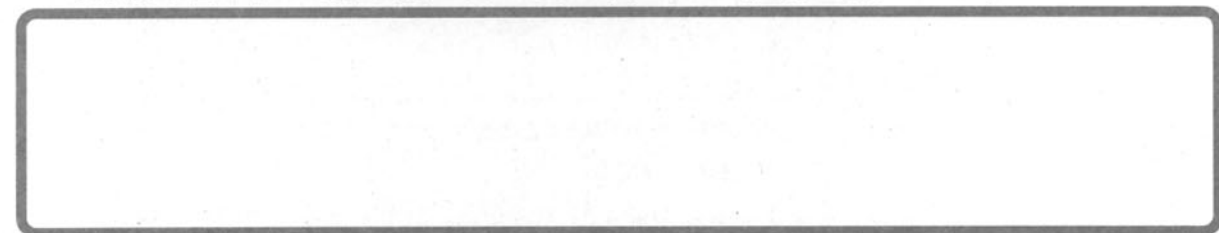
**類似プログラム**  
 心の耳を育てる一音からの教育「イヤゲーム」  
 長谷川 有機子 著

オリジナル/自然教育研究センター

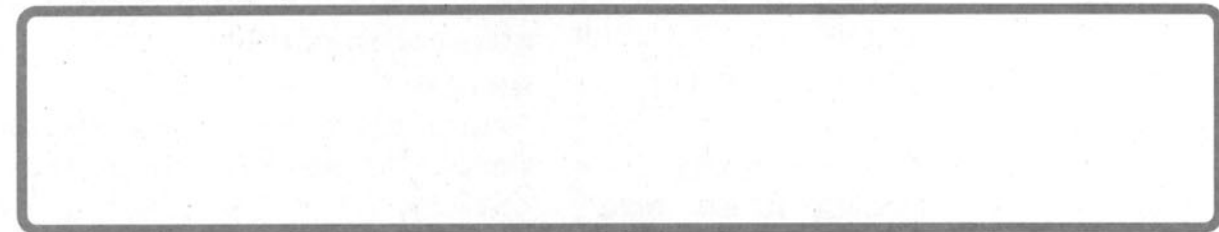
◆見える範囲の風景（自然）をスケッチしましょう。



- ① 聞こえてきた音を、聞こえた場所に聞こえたとおりに書き込んでみましょう。（例えば、森の中から、「ガサガサ」「ピーピー」。川から「ザーザー」など）
- ② たえず聞こえてくる音はどんな音でしょう？それは何の音でしょう？（動物の音・声 鳥の音・声 虫の音・声 植物の音 など）



- ③ たえず聞こえてくる音と、ときおり聞こえてくる音には、何か関係があるのでしょか？



●他の環境でも同じように活動して、音を比べてみましょう。

年 月 日 名前